

■温室効果ガス削減の目標

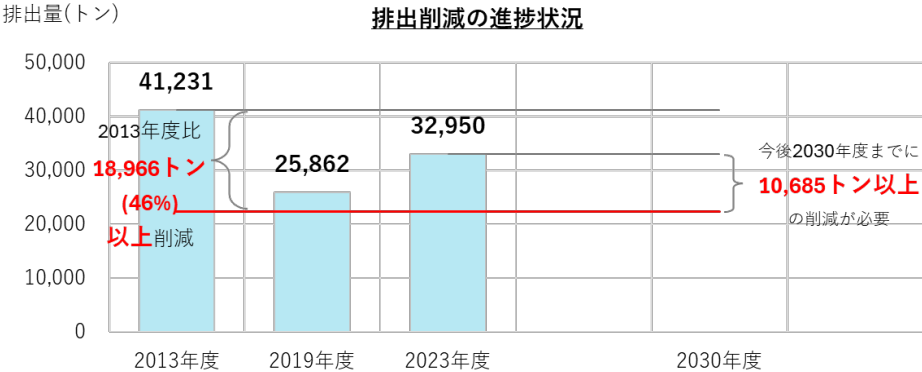
	削減目標（政府目標値）
2030年度	2013年度比 46%（18,966トン）以上
2050年度	カーボンニュートラル

■温室効果ガス排出量の推移

福岡空港の2023年度の温室効果ガス排出量は、2019年度比7,088トン増加の32,950トンである。
2030年度の削減目標（2013年度比46%以上の削減）の達成には、今後10,685トンの削減が必要である。

	温室効果ガス排出量(トン)		
	2013年度	2019年度	2023年度
空港施設	37,468	21,420	29,249
空港車両	3,764	4,442	3,700
計	41,231	25,862	32,950

※小数点以下の端数処理により合計値が整合しないことがある



主に契約されている電力会社の排出係数・・・2013年度：0.599、2019年度：0.347、2023年度：0.475

■2019年度～2023年度の温室効果ガス排出量の増減背景

福岡空港では、脱炭素化施策の取組が行われているが、建築施設は増加し、2023年度の航空機の運航回数や旅客数はコロナ禍前(2019年度)に比べて増加している。さらに主に契約されている電力会社の排出係数も上昇していることを背景に、温室効果ガス排出量は2019年度に比べて増加した。

■脱炭素化施策の取組状況

空港施設に係る取組	➢ 建築施設照明のLED化や省エネルギー運用等、建築施設の熱負荷低減、空調の高効率熱源の導入、空調・換気の省エネルギー運用等の取組が行われた。 ➢ 航空灯火のLED化の取組が行われた。
空港車両に係る取組	➢ 電動車への更新が行われた。
再エネ導入促進に係る取組	➢ 非化石証書の調達による使用電力の再エネ化が行われた。
その他の取組	➢ 次世代バイオディーゼル燃料「サステオ」を使用したバスの実証運行が行われた。